



博物館友の会会報

通巻 137 号

安曇野市豊科郷土博物館友の会

令和 8 年 7 月 1 日発行



「直接体験することの良さ大切さ」

友の会会長 百瀬 新治

田植えを終えてから約半月が経ち、早苗が根付き葉の緑が日に日に濃くなっています。父親の急死により稲作を引き継いで40年余りの時が過ぎていますが、未だ百姓として満足な仕事はできていません。但し、自分がライフワークとしてきた地域の歴史究明などには、農業に取り組んで直接体験してきたことがヒントを得るうえで随分と役に立っていると実感しています。自分の研究のなかで疑問に思っていることについて、農作業をされていてアッと気づいたり解決のヒントになったことが時々あるのです。

例えば、江戸時代における水田開拓と用水確保の代表例である拾ヶ堰の施工について、自分がこだわってきた疑問が自己の農業体験で説明が進んだ場合があるのです。全長15kmに及ぶ大土木工事を、春先のわずか3か月で完成させられた理由は何か。100mの間で3cmという途方もなく緩やかな傾斜の精密な工事を、だれがどのような方法で実施したのか。こんな疑問が解けずにいましたが、農作業の体験を通して随分理解できてきました。

まず、短期間で水路工事を完成させた要因です。松本藩から仕事を命じられ工事に携わった農民の立場からは、堰を造る工事のため春先からの田んぼ仕事が遅れ田植えが定められた時期までに終わらないという、百姓にとって致命的

な事が起こります。工事をしている農民の誰もが、稲作で一番人手が必要になる田植え時の前までに仕事を終わらせようと必死だったのでしょう。このことを身に染みてわかっている近在の百姓仲間の協力や応援も得て、安曇野全体で完成に向け猛烈な作業が続けられ工事が迅速に完了した結果につながったのではないかと、農事で培った体験からそう考えます。

もう一つ、微妙な傾斜の精密工事と農作業の関係です。自分の米作経験から、稲作りの基本中の基本は田面を水平にすることです。雑草を生やさず温かい水で良い稲を育てるには、田の土を平らにすることが肝要です。たぶん江戸時代の農民も土を平らにすることは農作業で身についており、現代でも高度な技術が要求される微妙なゆるい傾斜の水路工事は、農民にとって日頃の仕事の延長として得意とする作業だったのでしょ。これが拾ヶ堰の難工事を見事に完成できた大きな要因だろうと思います。

私たち友の会の活動も、自分の身体や頭脳を使いながらの作業的な事が中心になっています。その際に身についていく技術や知識は、活動を直接体験することで得られると思います。共に同じ方向でことを進めている仲間との交流を含め、会活動という場で得られる何物にも代えがたい貴重な財産は、直接体験をしているからこそその賜物と考えます。単なる興味本位の個人的取り組みにとどまることなく、周囲の人や世の中の役に立つ知恵や技術が身につくことにもつながっているのです。そう考えると、博物館に向く足が心なしか軽くなったように感じます。

さあ、友の会活動で直接体験を楽しみましょう。



第1回役員会・総会



4月10日（金）、第1回役員会・総会が無事に開催できたことに感謝いたします。
令和7年度事業報告・会計報告及び監査報告がなされました。その後、令和8年度事業計画・予算案が了承されました。



役員紹介

今年度の役員の皆様です。

大変お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

会 長	百瀬新治	会 計	堀金千恵子
副会長	牟礼梯子	会 計	辻井真弓・廣瀬洋子
副会長	窪田尚幸	会計監査	米澤安子・矢口高志

各部正副部長

部 名	部 長	副部長	副部長
書道部	隼田和子	牟礼梯子	
絵手紙部	高橋久子	堀金千恵子	
植物画部	佐々木泉	堀金なつ子	
写真部	藤松義躬	矢口高志	
戦時生活部	臼井泰彦	藤原恵正	
自然と暮らしの文化部	竹内明子	—	
植物調査部	城戸敦子	—	
郷土史部	古川幸男	—	
タカラさがし部	千村裕一	藤松慎一郎	水木勝俊



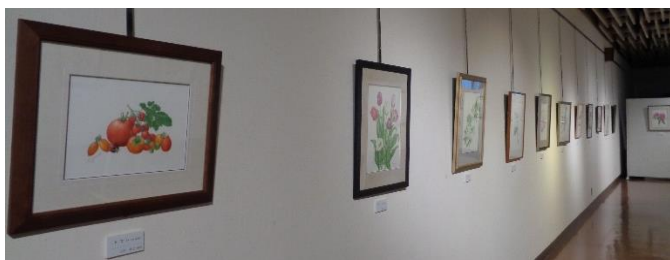
友の会活動

◆「第21回ボタニカルアート展・第40回写真展」令和8年6月6日（土）～6月28日（日）

ボタニカルアート展では、丹精込めて描かれた鮮やかで繊細な植物画26点が展示され、本物以上にリアルで緻密な作品に大いに魅了されました。

写真展では、安曇野の風景や季節を捉えた写真20点が展示されました。四季の豊かさ、命の輝きの素晴らしさに、見応えたっぷりでした。

ボタニカルアート展



写真展



◆6/21（日）友の会 1 回目の美化活動ありがとうございました！

2回目は、 7月25日（土）7:00~8:00です。 <少雨決行>

*暑さ対策のため、時間を早めています。

持ち物：飲み物等暑さ対策、草取り用具

1 回目は、蒸し暑い中 17 名の参加があり、博物館外の草取りを行いました。

友の会の大切な博物館のサポーター活動の一つです。ご都合のつく方は、是非ご参加ください。



◆今後の友の会展覧会予定

展 覧 会 名	会 期
第 23 回友の会絵手紙展	11 月 7 日（土）～11 月 29 日（日）
第 12 回友の会戦時生活展	11 月 7 日（土）～11 月 29 日（日）
第 72 回友の会新春書芸展	令和 9 年 1 月 16 日（土）～2 月 7 日（木）

博物館スケジュール

- 7/11（土） さよなら常設展ギャラリートーク 10:30～11:30
現在の常設展示は7月17日（日）で終了するため、最後に展示を監修した倉石あつ子さんのギャラリートークを開催します。
- 7/18（土）～ 常設展リニューアルのため1階展示室を休室します。9/18（金）まで。
- 7/18（土）～ 夏季企画展スタート 9/27（日）まで。
- 9/19（土）～ 常設展リニューアルオープン

「学芸員の顔の見える博物館に」

博物館長 原 明芳

昨年、頼まれまして信州大学で、「博物館経営論」の講義を9月末から毎週月曜日、合計15回実施することになりました。人文学部と理学部の学芸員資格取得を目指す学生が対象で、出身地は九州から北海道まで全国に渡っていました。難しい話ばかりでは面白くないので、豊科郷土博物館で心がけていること、実践していることを中心に話をしました。15回の講義の準備と、120人を越える学生成績づけは大変でしたが、いい経験になりました。

その中で「企画展」を題材とする講義で、経営論ですので、誰をターゲットに、何を伝えるために、企画展を開催するかを考えることにしました。

ところが、その前提として、どのような人が来館しているか調べてみる必要がありました。そこで、松本市のホームページにのっていた松本市立博物館（以下、松本市博）の指定管理者のモニタリングの結果と、豊科郷土博物館（以下、豊博）の昨年度の夏季展のアンケート結果を整理してみることにしました。

まず、どこから入館者は来たかです。松本市博は市内という区分はなく、県内が31.8%、県外が68.2%、7割近くが県外です。市内はどのくらいでしょう。それに対して豊博は安曇野市内が55.1%、松本市内が12.1%、その他県内が11.7%、県外が20.6%です。豊博は、8割が安曇野市民、地元のみなさんに来館してもらうことがわかりました。

それではどのような手立てで博物館、企画展の情報を得て、来館することになったかですが、松本市博は「通りがかり」が36%、公式HP・SNSが22%、観光情報サイト16%でした。ちなみにポスター・チラシは2%です。豊博は逆にポスター・チラシが43%、「広報あずみの」が19%、口コミが16%です。これを見ても博物館の性格のちがいがよくわかります。

松本市博が、結果的にターゲットとして狙っている入館者は、観光客になってしまうことがわかります。それをターゲットにした企画展も必要になるでしょう。

豊科郷土博物館は、多くの市民の方々に足を運んでもらう、地元の皆さんをターゲットに、多くの情報を発信する博物館ということになります。そのためには、市民から、学芸員の顔が見える博物館でなければいけないと思うのです。友の会の活動は、市民の皆さんと一緒にできる特別な活動です。

それと、受付から「館長さん」と声をかけてくれるのは、本当にうれしいことです。

ちなみに松本市は、本館（市博）のほかに地域に多くの分館（博物館）があります。地域と密接に結び付いた活動が期待されます。

令和8年度 安曇野市豊科郷土博物館 夏季企画展 令和8年7月18日（土）～9月27日（日）

鳥瞰図が伝える風景 戦前の観光信州—そのとき、安曇野は？

【関連企画】 講師：豊科郷土博物館長 原 明芳

◆講座 ・要入館料 ・定員 30名(先着順) ・要申込 開催日 10 日前より電話にて受付

① 「安曇野観光事始め」・日時 8月29日(土)13:30～ ・会場 豊科郷土博物館 2 階学習室

② 「鳥瞰図から戦前の松本平を語る」・日時 9月12日(土)13:30～ ・会場 豊科郷土博物館 2 階学習室

◆現地見学会「多くの参拝者を集めた満願寺を歩く」

・日時 9月22日(火・祝)9:00～12:00 ・場所 満願寺駐車場 9:00 集合

・参加費 100円 ・定員 20名(先着順) ・要申込 9月12日(土)9:00 より電話にて受付

◆ギャラリートーク「鳥瞰図の魅力に迫る」 ・要入館料 ・申込不要 ・時間:10:00～11:30と13:30～15:00

① 7月25日(土) ② 9月5日(土)

*友の会会報は、当館ホームページにカラーで掲載しています。是非ご覧下さい。